

## 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みんなの村こどもカフェ
事業主体 (連絡先)	認定特定非営利活動法人フリーキッズ・ヴィレッジ 伊那市高遠町山室 3009 電話 0265-94-5028
事業区分	②保健、医療、福祉の充実に関する事業 ④安心安全な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	550,000 円 (うち支援金: 437,000 円)

### 事業内容

共働き家庭の子ども、ひとり暮らしのお年寄り、移住してきた親子など、どんな人達も安心して過ごせる場「信州型こどもカフェ」として、みんなの村(三義中学校跡地)で、食事作り、遊び場開放を行った。

- みんなの村こどもカフェ(毎週水曜日の放課後)  
こども、大人と共に食事を作り、遊び場開放を行った。
- 夏休みだよ。みんなの村こどもカフェ  
お年寄りに伝統食の作り方を学び、遊び場開放を行った。
- テーブル作りワークショップ  
地域の大人からテーブル作りを学び仲間と一緒に作った。
- ホームページ「こどもカフェページ」の新設  
活動内容を発信し、広く活動を普及。



【こどもカフェの様子】

### 【目標・ねらい】

- ① こどもの生きる力を育む
- ② 伝統文化を継承する
- ③ 安心な地域の居場所をつくる
- ④ 活動を広く普及する

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①「今日のおやつは何!手伝う〜!」と、自ら声をかけてきて、楽しくおやつ作りをするこどもが増えた。異年齢のこども達が遊ぶ環境では、どんどん遊びが生まれ、夢中になって遊んでいた。
- ②お年寄りに、地元で伝わるおやつ作りを学び、こどもも大人も楽しく美味しい時間を過ごすことができた。
- ③場の安全管理、場作り、スタッフの充実により、安心して活動を行うことができ、こども達に丁寧に対応することもできた。
- ④以前よりも参加者が増えた。また、活動日以外にも不登校の子ども達が日常的に遊びに来る場所として選ぶようになった。活動の見学に来る人、応援してくれる人も増えた。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度活動していく中で、高遠エリアで不登校の小中学生の子ども達が複数いる現状を知ったのだが、彼らが平日に行ける居場所が高遠にはなく、一日中家にこもっている子どもがほとんどのようだ。

そこで来年度は、本助成金に申請し、水曜日のこどもカフェ、春休み、夏休みカフェの活動を続けて、さらにたくさんの子どもの「みんなの村」が居場所として選ばれるようにするだけでなく、火曜日、木曜日の日中も不登校の子ども達が来られる場所「プレーパーク」として場を開放する。伊那市内の小中学校にも発信し、信州こどもカフェ活動の一環として、学習・発達支援も行っていく。活動報告にも力を入れ、本NPO法人の活動の支援者を増やし、今後の安定的な資金調達と活動の充実を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### ※自己評価【 A 】

#### 【理由】

- ・予想を上回る数の参加者があり、地域の人同士の繋がりもさらに広がった。
- ・平日も居場所として選ぶ不登校の子どもがいて、来年度以降の活動の指針が見えた。